

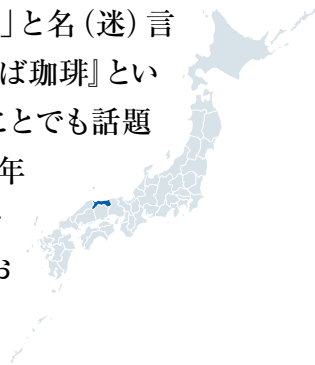
全国漁業信用基金協会 鳥取支所

1 鳥取県の概要

鳥取県は中国地方の日本海側、山陰地方の東側に位置しています。東西は125km、南北は62km、面積は3,507km²と全国で41番目の広さで、人口は全国最少の55万人です。鳥取県はよく隣県の島根県と間違えられますが、左が島『根』、右が『鳥』取で『ねっとり』と覚えてください。

さて、鳥取といえば、平成26年当時、47都道府県で唯一スターバックスコーヒーの店舗が存在しなかったことから、県知事が「スタバはないけど

日本一のスタバがある」と名(迷)言し、これをもとに『すなば珈琲』という喫茶店が開店したことで話題になりました。令和2年12月末現在で10店舗を構える喫茶店となり、スタバが鳥取に開店した現在でも根強い人気があります。



2 鳥取県の水産業

海岸線133kmの約6割は砂浜域となっており、県魚であるヒラメの好適な生息域となっています。また、県西部には中国地方最高峰となる標高1,729mの大山があり、山頂付近にあるダイセンキャラボクの群生地は国の特別天然記念物に指定され、また、標高800mから1,300mは西日本最大のブナ林が広がり、広大なブナ林に育まれて栄養を豊富に含んだ良質な伏流水や湧水が美保湾へと流れ込むことで好漁場の形成につながっています。

鳥取沖では、対馬暖流と水深200m以深に分布する日本海固有冷水がからみ合い、プランクトンや小魚などの餌が豊富なため、それらを食べる多種多様な魚種が集まってきます。対馬暖流が影響する海表面から水深100mまでの表層ではアジ、サバ、イワシ類がまき網漁業によって漁獲され、日本海固有冷水が影響する水深200m以深の海底付近では、松葉がに(ズワイガニ)やハタハタ、アカガレイなどが沖合底びき網漁業で漁獲されています。

全国で水揚げされるカニの約半分が鳥取県内の漁港で水揚げされており、当県はカニの水揚量及び消費量が日本一であることを受けて、カニの

シーズンは県名を「蟹取県」に改名するなど水産業に力を入れています。特に松葉がにには平成27年に大きさ・重さ・品質など5つの基準を満たした最上級品をトップブランド『特選とっとり松葉がに五輝星』と命名しています。平成30年の初競りでは1枚200万円の価格がつけられ「競りで落札された最も高額なカニ」としてギネス世界記録に登録され、さらに翌年には1枚500万円の値が付き、世界記録を更新したことで大きな話題となりました。

また、県と漁業者が一体となって水産物のブランド化に力を入れており、鳥取の夏を代表する旬の味覚である天然の岩ガキを『夏輝』と命名。甘みが強く、身は肉厚で加熱しても硬くならないことが特徴的なケンサキイカは、漁獲後墨袋を取り除くことで汚れることなくきれいなまま出荷・調理ができるようにしたものを『白輝姫』と命名。年間の水揚量が全国トップクラスであるハタハタは、脂がのっている全長20cm以上のものを『とろはた』と命名するなど付加価値の向上に努めています。

全国7位(令和元年)の水揚量を誇る境漁港は日本海側で最大の漁港で、その北側に位置する

鳥根半島が天然の防波堤の役割を果たすことで古くから良港として利用されています。カニ籠漁船によるベニズワイガニの水揚量は長年に亘り全国1位であり、大中型まき網漁船による生クロマグロも全国トップクラスの水揚量を誇ります。背後地には水産加工業が発展しており、片側2車線の国道が高速道路までつながっており、利便性もよいことから、日本海で操業する全国の漁船が寄港し水揚げする基地となっています。平成26年9月から水産庁の計画の下、総事業費208億円をかけた高度衛生管理型市場への施設整備を実施しています。令和元年6月には主要施設の完成に伴い新市場の一部が供用開始され、これに合わせて漁港見学ツアーがリニューアルされ、年間約1,000人が訪れました。令和5年度に全施設の整備完了を

見込んでおり、境漁港・市場の更なる発展が期待されています。

当県では養殖事業にも力をいれています。

平成23年には東日本大震災を機にニッスイグループ会社が境港に拠点を移し、ギンザケの『境港サーモン』などを養殖しており、生産量も年々増加しています。また、平成29年から県とJR西日本が協力し、陸上養殖による生食できるサバ『お嬢サバ』を生産しています。

特選とっとり松葉がに五輝星 いつきぼし



ベニズワイガニ

3 鳥取支所の概要

- 住所：鳥取市東町1丁目271番地
- 電話：0857-26-8392 Fax：0857-29-4627
- 会員数：82名
- 出資総額：634,950千円
- 保証残高：4,041,070千円
- 担当理事：景山一夫
- 担当監事：長戸 清
- 職員数：3名 (令和2年12月末現在)

4 鳥取支所の活動

令和2年度は新型コロナウイルスが全国で猛威を振るいましたが、鳥取県水産関係者からの感染の報告は今のところありません。しかしながら、令和2年度前半は流通が停滞したことにより

魚価が低迷し漁業関係者に大きな影響を与え、農林中央金庫の利子助成及び国の保証料助成を適用した運転資金の保証が増加しました。また、国の漁船リース事業による漁船建造資金の保証を実施した結果、令和2年度は過去最高の保証引受額を見込んでいます。

一方で、漁業者の高齢化や担い手不足で年々沿岸漁業者からの設備投資に係る保証は減少しており、支所としても鳥取県水産業の存続に各関係機関と協力して新規就業者の確保や担い手不足に対応していき、漁業の発展とよりよい保証制度を推進してまいります。



クロマグロの競り



リース船の竣工式